

## 薬局紹介

# 平鹿総合病院 薬剤科

薬局長 藤原 斉

当院は昨年 4 月に新築移転をし、病床数 586 床(一般 580 床、結核 6 床)、診療科数 21 科として新たなスタートを切りました。新病院においては患者様の療養環境、衛生環境、駐車場スペースの確保など大幅に改善を図り、ユニバーサルデザインを念頭に、すべての人に『快適な病院』



となるような設計とし、「安らぎ、ふれあい、開放的な、思いやりのある空間」を目指し、最新の高度医療を提供することはもちろん、機能分化、連携などにより地域全体の医療水準の向上に貢献し、患者様中心の病院として地域から信頼され、選択される 21 世紀型の病院となることを基本としています。また、従来の医療機能に加え、県の三次医療機能整備の要請として、救急センター、地域周産期母子医療センター、地域療育医療拠点施設(障害児リハビリ)の機能を有し、その他緩和ケア医療病床を設置、共同利用ベッドを設け病診連携の強化を図っています。



<外来化学療法室>

当科では昨年 5 月からの外来化学療法室開設に伴い、今までの業務に加え、抗がん剤調製と副作用説明、レジメン管理を行っています。外来化学療法室の利用患者数及び調製件数、指導回数も増加傾向にあり、11 月は患者数 50 人及び調製件数 100 件、指導回数 34 回に上っています。薬剤師が関与したことにより、投与間隔、投与

量、内服薬処方忘れなどの未然回避ができ、また、薬剤師が副作用説明を行うことで、患者様の副作用に対する不安の軽減に役立ち、治療に積極的になったと思われま



<抗がん剤調製>

最近では、入院患者様の持参薬服薬状況調査をし、服薬状況不良が半数を占めることがわかりました。また、同時に、服薬状況不良の患者様の半数以上が一包化されているにも関わらず、コンプライアンスが悪いという結果が出ました。この結果から、当科では病棟看護師と協力し、自己管理箱などを使い、患者様の服薬教育を始めました。それにより、患者様本人の服薬に対する意識が高まり、退院後の自宅での自己管理箱継続使用の要望が増え、院内売店で自己管理箱が販売されることになりました。

当院の業務はこれまで同様、院外処方を応需していただく地域薬剤師会の皆様のご協力なしにはありえません。今後とも平鹿総合病院と当院処方の患者様をよろしくお願いいたします。

